

メインテーマについて

篠原 秀雄（埼玉県立蕨高等学校）

On the Main Theme

Hideo Shinohara (Saitama prefectural Warabi High School)

【メインテーマ】

天文教育普及活動の 20 年、そしてこれからの 20 年

1. “成人式”を迎えた「天文教育研究会」

天文教育研究会は、今年（2006 年）の開催で第 20 回となりました。人間で言えば成人式となる記念すべき会です。そこで研究会のメインテーマに「天文教育普及活動の 20 年、そしてこれからの 20 年」を掲げ、天文教育普及活動のこれまでの 20 年を振り返り、今後の 20 年を展望することにしました。

天文教育分野においては、他の科学の分野にくらべプロアマ連携がきわめてうまくいっており、研究の最先端と教育現場、社会教育施設がうまく高めあう構造ができあがっています。また、そういった活動で興味喚起された天文に関心のある高校生や中学生に、確実に活躍の場を提供できる環境が現在できていることは、自負できることであると思います。このような環境を構築できるに至ったのは、当会の会員の努力や活動が少なからず結実した結果であると思います。反面、学習をめぐる情勢としては、学習指導要領では系統的な学習ができにくくなるような展開を強いられている現状があります。また、社会教育施設に関しても厳しい時代の波が押し寄せており、腰を据えた教育普及活動ができにくい状況であるといえます。このような環境で、今後「天文学を通じ科学の楽しさ」を伝える活動がどうあるべきかということ、この機会に徹底的に議論したいという思いが、このメインテーマには込められています。

2. 準備研究集会としての関東支部研究会

今回の研究会をどのような会にするかを検討するため、研究会の運営担当となった天文教育普及研究会関東支部では、準備研究会として 2 回の支部研究会を夏の研究会のメインテーマと同じテーマのもとで開催してきました。

1 回目の支部研究会（2005 年 11 月 20 日、ミュージアムパーク茨城県自然博物館）では、基調講演として、水野孝雄氏（東京学芸大学）および鈴木文二氏（埼玉県立春日部女子高校）により、それぞれ「天文教育普及研究会・これまでの 20 年とこれからの 20 年」、「Astro-HS で何ができたのか」というタイトルでお話をいただきました。水野氏には、天文教育普及研究会の立ち上げ当初の頃からのエピソードも紹介していただき、この研究会の歴史がよくわかりました。他にもテーマに関連した発表があって、非常に多彩な内容になりました。

2 回目の支部研究会（2006 年 6 月 10 日、立教大学）では、基調講演として、懸秀彦氏（国立天文台）による「社会の中での天文学 この 20 年、そして今後の 20 年」および加藤明良氏（大宮西中学校）による「小中学校の学習指導要領の天文分野の推移」の 2 件がありました。懸氏の講演では、この 20 年間の天文に関する大きなニュースが紹介され、社会の中で天文学がどのように歩んできたかを振り返ることができました。他にも興味深い発表があり、1 回目の支部研究会とは違った視点からメインテーマについて考えることができました。

（これらの支部研究会のより詳しい内容につきましては、「天文教育」誌掲載の報告記事をこの集録の付録に収めてありますので、そちらをご覧ください。）

3. そして第 20 回天文教育研究会・テーマセッション

今回のテーマセッションは、研究会の 2 日目および 3 日目に行われました。

基調講演

はじめに、基調講演として東京大学名誉教授の祖父江義明氏に「天文教育における学会と教育界の連携について」というタイトルでお話をいただきました。祖父江氏には、日本天文学会の現理事長という立場から、天文学会の組織構成、学会における天文教育との関わりについて説明していただき、さらに天文教育普及研究会が今後どのように活動していくべきかについての提言をいただきました。示唆に富んだその内容に、会場も大いに盛り上がりました。

基調講演の後は、学校教育セッションと社会教育セッションの 2 分野に分けて講演および討論を行いました。はじめに学校教育セッション、続いて社会教育セッションとなりました。

学校教育セッション

学校教育セッションでは、まず「学校教育の天文分野で学ばせるべきことと、そのためにあるべき教育体制」というタイトルで水野孝雄氏（東京学芸大学）に総論的な内容で講演いただきました。氏は、学校教育において「天文分野で学び、身につけさせるべきものは、現在得られている宇宙観と、それを理解する理科的な力である」という主張のもとに、具体的な提案をされました。特に小学校教育の重要さに言及され、小学校で多数を占める文系教員への支援体制の必要性を訴えられました。続いて、学校現場での具体的な活動の報告として、中学校の授業における実践報告を渡辺洋一氏（大阪市立玉出中学校）に、また日本独特の活動形態である部活動とそのネットワークである Astro-HS の取り組みについて鈴木文二氏（春日部女子高校）にお話しをいただきました。

社会教育セッション

続いての社会教育セッションでは、はじめに「社会教育は生涯の学習テーマ、生涯学習は社会の教育テーマ」というタイトルで黒田武彦氏（西はりま天文台）にお話をいただきました。生涯学習の一翼を担うべき社会教育の目的をまず示された上で、社会教育の現状とその問題点をあげ、私たち天文教育・普及活動に携わる者がどのような気構えで実践すべきかの提言をされました。続いて、「プラネタリアムの変遷 - 日本のプラネタリアム、昨日、今日、明日 - 」というタイトルで伊東昌市氏（杉並区立科学館）に、そして「科学ライブショー“ユニバース”その 10 年の歩みと今後の展望」というタイトルで伊藤哲也氏（国立天文台）にそれぞれ、社会教育の現場での取り組みについてお話をいただきました。

各分野セッション後の討論の時間では、それぞれのテーマに関連した意見交換を行いました。

総合討論

最終日となる 3 日目の総合討論の時間においては、全体を通した内容に関して活発な議論が交わされました。特に若手の参加者から、この研究会に対する忌憚のない意見や鋭い質問が出されました。真剣勝負の討論がこの会を支えていくことになる実感させられました。最後に、天文教育普及研究会の新会長である松村雅文氏（香川大学）が今後の研究会の方向性についてまとめて、終了となりました。

関連企画

今回の研究会では、第 20 回の関連企画として天文教育普及研究会の会誌「天文教育」および「天文教育研究会集録」の全バックナンバーの展示を行いました。また「天文雑誌の 20 年」として「天文ガイド」20 年分の全バックナンバーや「スカイウォッチャー」、「天文と気象」などのバックナンバーの展示もあわせておこないました。休憩時間には、会誌や雑誌を手にとって昔話で盛り上がる光景も見られました。

4. 終わりに

前年の研究会（2005 年 7 月 31 日～8 月 2 日、兵庫県立西はりま天文台公園）の場で関東支部委員を中心に数人の有志が集まり、実行委員会の小さな第一歩が踏み出されました。その後も多くの方に実行委員会に加わっていただきました。2005 年 9 月はじめに実行委員会のメーリングリスト（tenkyo2006）が立ち上がり、議論の大部分はこの ML 上で行われました。1 年間で行き交ったメールは 2000 通をはるかに超えています。

研究会の運営に携わってつくづく感じたのは、何かをなすのは結局は人の力だという、あたりまえのことでした。スタートはふわふわしたただのコンセプトに過ぎなかったものが、多くの方々の知恵、知識、人脈、実行力、ときに腕力、・・・、そういったものの結集によってひとつの研究会として形になっていくのを、目の当たりにすることができました。研究会に携わったすべての皆さま（講演・発表していただいた方、運営に関わった方、参加された方、そして参加できなくても見守っていただいた方、その他何らかの形で関わった皆さま）に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。